

AIDS UPDATE

No.28 2001.10.5

広島大学医学部附属病院

エイズ医療対策室

内線2941 (輸血部長室)

Internet: www.aids-chushi.or.jp

エイズUpDateジャパン Vol.3, No.1

厚労省研究班の一環として、日本中に配信しているニュースレターです。全国版と地方版で構成しており、中四国版を含めて、この広大で作成しています。トップ記事は「わが国のHIVカウンセリングの今、そしてこれから」です。医療での心理専門家の活動は、医療全体の質の向上に欠かせないサービスだと思います。エイズだけが心理的ケアが必要なのではありません。モデルとして広げていきたいと強く思っています。

ブロック版では「HIV感染症治療チームの中に薬剤師の参加を」を載せました。患者ケアにあたる薬剤師の研修モデルを模索したものです。

臨床と病理のカンファレンス

エイズ剖検例を検討

時：10月23日(火)16:30-18:00。

所：医学部第4講義室。

久々のエイズ死亡例について、臨床側と病理の討議を通じて学びます。HIV感染症は発病前に見つかった患者さんの生命予後は、治療の進歩のおかげで格段に改善されました。しかし治療が難しい疾患で発病すると、今回の患者さんのように不幸な転帰をとることがあります。ある患者さんの死・・・私たちに何ができて何ができなかったのかを学びたいと思います。医療従事者、そして医療関係に進む学生・院生の参加を呼びかけます。

アジアとアフリカのエイズ専門家による 広大病院の見学

アジア地域エイズ専門家研修は、エイズに関する国際貢献のために厚労省が主催で1994年から始めたものです。JICA、結核研究所、エイズ予防財団が委託されて実施しています。約20カ国から40代前後の現場責任者が、エイズの予防啓発・教育、疫学・公衆衛生、病態・検査・治療まで約1ヶ月をかけてトレーニングを受けます。地域のモデルとして、広島が選ばれ、1997年から医師団の訪問を受けるようになりました。

今年は、10月16日(火)の14:00から16:30に大会議室での講義、外来診察室と輸血部検査室の見学を行います。廊下ですれ違ったら、「ハ～イ!」とか、「ヘロー!」などと声をかけてください。

今年は、外務省がアフリカの専門家を招き、10月19日(金)に広大病院を訪問することになりました。同じようなスケジュールで本院とその活動を紹介する予定です。



<ご意見募集>

「AIDS UPDATE」は今後も不定期に発行します。ご意見やご希望がありましたら輸血部までお寄せ下さい。 [TAKATA, OE]
takata@aid-chushi.or.jp